

NPO (特定非営利活動) 法人 笠岡を元気にする会

本会は、2012年5月に結成され、同年9月12日にNPO法人の認証を受けました。
活動の視点を、笠岡の元気を創る“まちおこし”とし、特に、①島、②農村、③商店街、④干拓の活性化支援を行い、同時に社会的弱者の方々の“さいごの砦”“駆け込み寺”として、会員のみなさん方と力を合わせて、生活相談を強めていきたいと思ひます。

元気会 〒714-0085 笠岡市四番町3-20 TEL 6 3-0 9 1 1 HP <http://kasaoka-genkikai.com>
(「元気会」の事務所は、笠岡グランドホテル正面です 気軽にお立ち寄りください)

No.37 2015年 6月 1日発行

6月19日(金)
18:30~

NPO元気会 総会 in サンライフ笠岡

地域の駆け込み寺的さいごの砦活動の一層の充実を

NPO法人認承3年目を迎えます。
一年間の活動を振り返り、今後の活動方針を決定する、年に一度の総会を6月19日(木)午後6時30分、サンライフ笠岡において開催いたします。
会員、賛助会員のみなさま、ぜひ、ご出席下さい。委任状での参加も可ですので、同封の出欠確認葉書にて、よろしくお願ひいたします。
この一年間の生活相談件数は480件と、相変わらず多様

で暮らしの厳しさを反映しています。
NPO活動では、福祉医療機構から117万円の助成金や、24時間テレビかからは活動車の寄贈を受けるなど、“さいごの砦”活動が認知される状況となっており、今後とも一層の“打てば響く”活動が求められています。頑張ります。



大盛況でした！ 元気会応援イベント



引き続き
大盛況にしたいものです♪

① 水川創壊作陶展

元気会は後援団体として、郷土の陶芸家・創壊氏の活動を応援しています。陶芸文化による笠岡の元気を創ってほしいと願っています。
5月21日～24日に、約800人の来場でした。



② 拝啓 竹内昌彦先生 見えないから見たもの

実行委員会の一員として応援しました。
5月23日(土)の市民会館大ホールは、立ち見が出るほどの大入り。一途に頑張る竹内少年を支える、ご両親のストーリーに、拍手と涙と感動の嵐。



6月7日(日)

ギャラクシーホール
今度は竹内昌彦先生
ご本人が笠岡に来られ、
“私の歩んだ道”
と題しての講演です。
無料ですが、**申込み**が必要
※申込み用紙は同封しています

③ ミズノオープン プレイベント 干拓ウォーキング大会

実行委員会事務局の一員として応援しました。
当日、心配されていた天気も、絶好のウォーキング日和。初めての企画でしたが、全国から1200人が参加。笠岡・干拓の情報発信となったようです。



7月18日(土)

よっちゃんれの夜
元気会が事務局を担当します。
笠岡の夏の夜を彩る、名物よっちゃんれの夜。少人数のグループ参加も可。毎年1000人を超える、熱狂の踊りの輪を今年も熱く元気に創りましょう。
出場申込みは元気会まで

NPO元気会の活動を定める定款には、①社会的弱者支援と共に②島地部③干拓④商店街⑤農村部の活力支援を定めています。

裏面も見てね♪

お知らせコーナー

・会員のみなさんの情報
・5月・6月・7月の出来事など 共有コーナーです

NPO元気会の活動を定める定款には、①社会的弱者支援と共に②島地部③干拓④商店街⑤農村部の活力支援を定めています。

銭太鼓奮闘!



いつも元気会のイベントで大活躍していただいている銭太鼓寿会（内田寿恵美会主）のみなさんが、頼の浦大漁節全国大会で優秀賞を受賞。

おめでとうございます。

年齢を重ねる度に、若々しく？技術はいつまでも上昇気流です。

集え～る・ひまわり 広い所へ引っ越し



当初、6人で開始した、自主デイサービス 集え～る・ひまわりが、今では約20人となり、部屋が手狭になってしまいました。それ程、介護保険下だけでは対応できない人が多いということでしょうか。

そこで、“元ありぜん食堂”から、中央町のメイン道路に面した、“元宮嶋時計店”をお借りし、広々とオープンです。みなさん、毎週金曜日、ぜひお立ち寄り下さい。

6月からオープン 北川地区へ

リハビリ型デイサービス“絆”が、北川地区へ6月1日オープンです。機能訓練中の北部のみなさんに朗報です。



商店街イベント

恒例 おかげいち

お参り途中で元気会テントあり ぜひ、お立ち寄りを

6/21(日) 100円商店街

各個店が目玉の100円商品を前面に、“賑わい再生”を実施。

笠岡の夜を彩る 花火大会 7月25日(土)

豪快・きれい・華やか・凄い
7/18よっちゃんれの夜は 港まつり花火大会の 前夜祭的イベントです



ちょっと 早いですが 女優



小山明子さん 講演会

9月27日(日)

13:00～ 笠岡市民会館 1000円

チケットは元気会にあります

NHKで紹介 されました

元気会活動



私たち元気会が行っている、駆け込み寺・さいごの岩活動が、5月13日のNHK“岡山もぎたて”で紹介されました。

生活困窮者自立支援法が4月から開始されていますが、私どもの活動の先駆性が、1つのモデルとなっています。

島おこしイベント

5/6(水) 白石島 トレイルラン全国大会

白石島の山野を走り、自然を体験するトレイルランを開催。海外からの出場者も含めて、140人が参加。標高160mのオリエンテーリングコースに汗を流し、“ShiRaiShi”をPR。



5/31(日) 第17回 島の大運動会

有人七島の人が力を合わせて、島は一つを合言葉に、運動会をツールにした、島おこしと島づくりです。今年は、飛島で開催しました。

6/27(土) リレマラソン

笠岡陸上競技場

ハーフマラソン(21.0975km)をチームでリレーし、走り切るリレマラソンです。

元気会も理事長外9人を揃え、ハーフマラソンに挑戦。お暇なら応援に来てネ!



NPO法人 笠岡元気会は 笠岡を元気にするこんな人を応援しています

陰日向なく、福祉の心でボランティア活動を続けられる

真鍋芳郎・美代子夫妻

ボランティアという言葉の語源は、「自由意思」を意味するラテン語のボルンタス (voluntas) だと言われています。色々なボランティアがある中で、福祉ボランティアに求められる自主性、主体性、無償性、公共性、福祉性、社会性、そして連帯、継

続先駆、開拓という理念を見事に理解し、地道に活動を続け、社会的弱者を支え続けられているご夫妻がおられます。

緑町在住の真鍋芳郎・美代子夫妻です。

こういう人達の力によって、笠岡の元気は創られているのです。



芳郎さん

笠岡の福祉活動のほとんどの分野に地道に参加され、人の目にあまり触れない分野をコツコツと几帳面に誠実に尽くされる。私どもにとっては、“福祉ボランティアの神様”のような人です。私利私欲とは全くの無縁で、ボランティア団体の集団の中で、いつも単なる一員として活動され、相手の状況を見極め、ニーズの正しい把握をされ、動かれています。個人的な好き嫌いも言わず、対象も選ばず、それでいて向上心をもち続けられている方です。

笠岡の弱者を元気にするには、芳郎さんのような性格の人が絶対に必要なのです。

「目の前に困ったことや困った人がいればほっておけない」という性分なのでしょうね。美代子さん

聴覚障がい・視覚障がいの方々をアシストするボランティアばかりでなく、“NPO法人こども劇場”でも活躍する縁の下の力持ちとして八面六臂。それでいて、あまり前面に出なく、肝心な時のみいつの間にかフォローに回っているという、福祉ボランティアの鏡のような人です。

こういうやさしきボランティアに笠岡の福祉は支えられています。



福祉ボランティアに参加されている方々は、共通してみなさんスゴイ方達ばかりですが、その中でもひとときわ元気を頂けるご夫妻を今回は紹介しました。

NPO法人 笠岡元気会は 笠岡を元気にするこんな人を応援しています

福祉のスポーツ・ゲートボールの 競技者減少傾向に歯止めと鼓舞奮闘の

山本圭一(85歳)さん(笠岡ゲートボール協会会長)



「ゲートボール」というスポーツは、昭和22年北海道で発祥したものです。

このゲートボール競技の代表として、競技普及の先頭に立って、昼も夜も休みなく活躍されているのが山本圭一氏なのです。

団体競技から個人競技へと時代の流れの中でも、ゲートボールの奥深い競技性を、高齢者ばかりでなく、誰でも手軽に楽しめるスポーツに広めようと、日々、創意工夫の山本さんです。

相互の思いやりが原点

5人の内、一人だけ早々とゲートを通すという戦術ではなく、5人が互いに助けあいながら、守りながら進むという、いわば「福祉の心」を原点としたようなスポーツです。しかし、最近の情勢は、チームプレー、和よりは個人の勝敗、個人プレーの方が「勝っても負けても気が楽だ」の傾向にあり、相互の思いやりを原点とするゲートボール人口は減少となっています。

毎月開催される
交流大会の開会式の様子

みんなの励みになればと
毎月山本会長が手づくりされる賞品



認知症予防には最高です

山本会長は、この心やさしく、奥深く、高度な判断が求められるゲートボールを、高齢者の生きがい活動、認知症予防に活用しようと頑張り続けられています。

強い弱いでなく、奥の深い競技であるゲートボールを通じて、楽しい一日を過ごし、生きがいと笑いの溢れる元気な高齢者集団づくりのために、生涯現役をスローガンに、毎月必ず交流大会を企画するなど、ゲートボールが背広を着て歩いていると言われる程の熱心さです。

現役選手の中に90歳代がゴロゴロ

今年96歳を迎えられる荒木安一さんをはじめ、各チームには90歳代の人も多い。80歳代となればバリバリの現役です。審判をする時は大声が必要。ゲートを通す時は全身に緊張感を集中。ゲート付近にな

ると、相手球と自チーム球の動きを瞬時に判断。つまり、目、口、耳、頭を同時にフル回転させる競技のため、みなさん、全く年をとりません。あなたもぜひ、ゲートボールを。